

# 海の森を使用される皆様へ

---

「使い始めはよかった」海の森を使い続けると、思ったほどの改善が見られない、なぜ海の森に物足りなさを感じるようになるのでしょうか。

初めて海の森（水中油型の乳化水溶液）を使ったとき、「使い始めはよかった」ということは、海の森が皮膚表面に水中油型の薄い膜（水と油）をつくり、刺激や水分蒸散を防ぎ、即効的に滑らかさをつくるからです。また、植物油の中に含有された乳化作用のある不飽和脂肪酸（天然セラミド）が角質層最上位の細胞間脂質（タイプ1のセラミド）に浸透しても、角質層のラメラ液晶構造を破壊することなく、逆に肌にうるおいを与えるからです。

角質層が角質水分保持機能として働くために、角質層最上位の細胞間脂質の主成分が不飽和脂肪酸（タイプ1のセラミド）になっています。不飽和脂肪酸は、角質細胞間脂質のラメラ液晶構造（保湿構造）を安定化させるための成分で、角質水分保持機能を維持する成分として極めて重要です。もし、角質層最上位の細胞間脂質の主成分である不飽和脂肪酸（タイプ1のセラミド）の代りに飽和脂肪酸が浸透すると、角質細胞間脂質の保湿構造が崩れ水分の蒸散量が増加し、肌は荒れてカサカサになります。また、刺激物が簡単に角質層下に入り、刺激物による炎症が多くなります。

また、海の森の油分は石鹼など使用しなくても水洗いなどで簡単に落とせ、肌のうるおい成分の損失も少なく、肌のうるおいに悪影響を与えません。さらに、あまり理解されていませんが、海の森の低刺激(精油成分)は肌ストレスを和らげ、肌自身でうるおうとする力の回復を図っているのです。

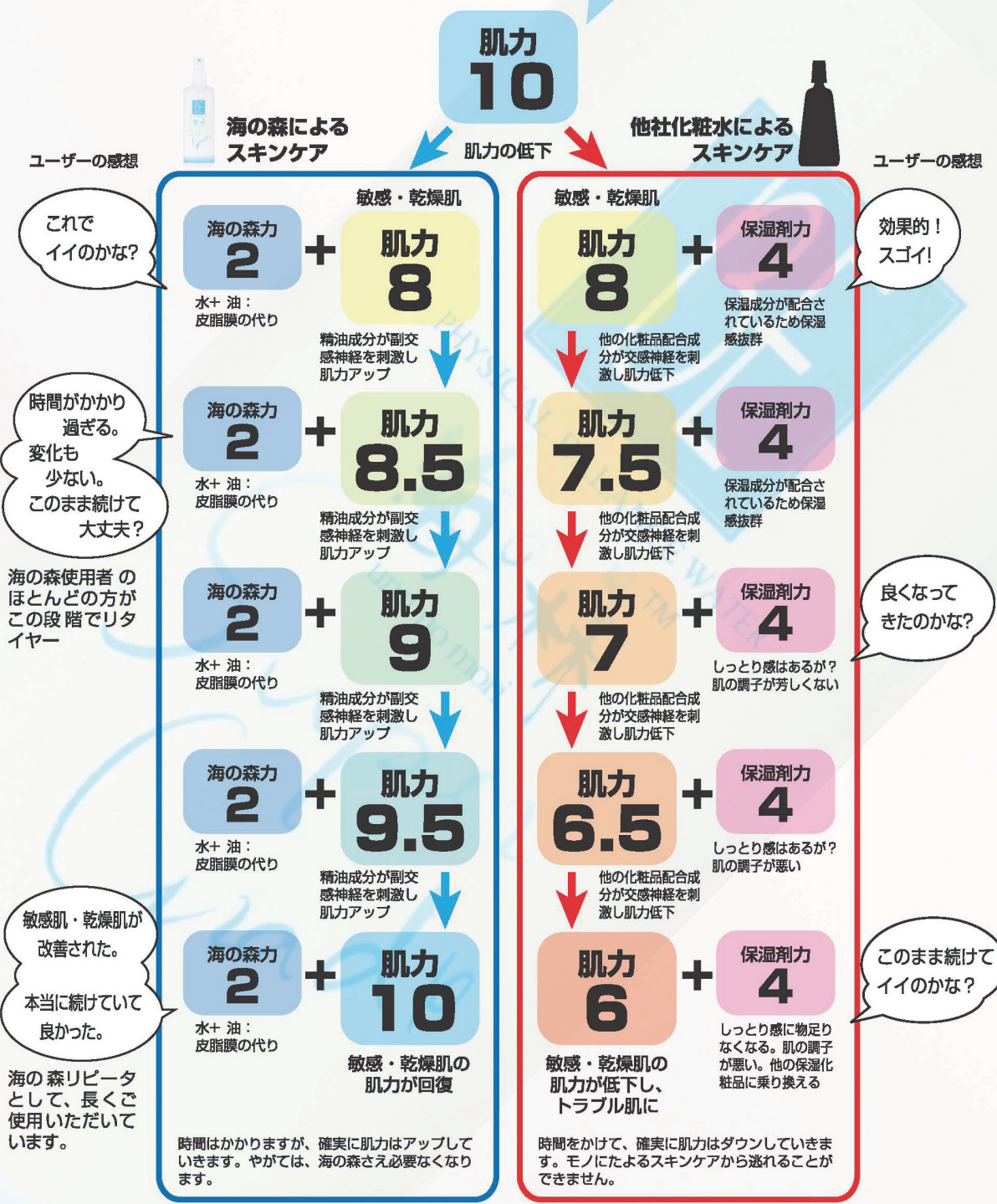
「その物足りなさ」と言うのは、保湿化粧品のもっている即効的なうるおい感に慣れ過ぎた結果、肌自身でうるおうとする力の改善が途中で、しかも、海の森の持つ「それなりの即効性：うるおい」に満足できていないからです。肌自身でうるおうとする力を取り戻すと、海の森の持つ「それなりの即効性」に自然と満足（慣れる）できるようになります。

肌ストレスを和らげ、肌自身でうるおうとする力の回復を図ります。同時に、皮膚表面に油中水型の薄い膜（水と油）をつくり、うるおいが少なくなった肌にうるおいを与え、とにかく刺激や水分蒸散を防ぐことです。肌のうるおいをなくすケアや行為はできるだけ控えてください。ゴシゴシ洗顔、クリームを強くすりこむ、行き過ぎたパッティング、行き過ぎたマッサージやパック、ファンデーションを厚く塗るなど、皮脂膜や角質層を傷つける行為は、肌のうるおいをなくします。また、界面活性剤(飽和脂肪酸)の多量や長期間の使用も肌のうるおいをなくします。

海の森とは肌自身でうるおうとする力の維持・改善に、使用できるフィジカルバランスウォーターです。肌力が改善していく過程に年齢は関係ありませんが、からだの基礎代謝量が高い人ほど、肌力改善スピードは速いと言えます。また、信頼できる施術者から受けるフェイシャルトリートメントは副交感神経の働きを高め心身をリラックスさせるため、肌力改善には効果的です。

一般的に肌力回復の速度は、老化や皮膚の状態（肌荒れ時や皮膚炎症時）により左右され、遅くなるといわれています。さらに、ヒトを取り巻く環境（紫外線・空気汚染・食物・ストレスなど）は年々厳しくなり、肌力回復の遅れの原因となっています。

- 皮脂膜量**：皮脂分泌・汗分泌→副交感神経支配
- NMF量（水分量）**：表皮新陳代謝→副交感神経支配
- セラミド（タイプ1）量**：表皮新陳代謝→副交感神経支配



※全ての方に同じ効果・効能を保証するものではありません。お肌に合わない場合は、ご使用をおやめください。